

揖斐川町学校教育の在り方審議会・大和地区集会（議事録概要）

1 日 時 令和7年11月20日（木） ＜開会＞19時00分 ＜閉会＞19時45分

2 場 所 大和公民館・集会室

3 出席者

審議会委員 林 利希也、安藤 美香

事務局 教育長 香田 静夫、事務局長 所 貴宏、学校教育課長 富山 哲成

地域住民 17人

4 次 第

（1）開会挨拶

- ・ 林委員より、開会の挨拶を行う。

（2）概況説明

- ・ 教育長より、「揖斐川町における学校教育の現状と課題」について説明を行う。

（3）意見聴取

住 民：私も今小学校に通っている子どもがいるが、複数の学年を1学級に束ねるとどうしても教育の質が下がっていくのではないかという懸念があるので、やはり学校の統合も含めてやっていかなければいけないのではないかと思っている。ただし、揖斐川町は広く、その広さに対して適切な学校の統合・配置を考えなければ、子どもたちの勉強する時間がなくなってしまうなどということが起きるため、十分配慮して進める必要があるのではないか。また、様々な活動を実施していただいているが、例えば大阪や東京の子どもたちは自分で電車に乗って通学をしているので、そういったフレキシビリティのある教育も取り入れていただけるとよい。

住 民：先日、妻のところに届いたアンケートとその別紙資料を見て、児童生徒数がいかに減少しているかを知り、衝撃を覚えた。これまでの学校統合の時には他人事のように感じていたが、自分事だと思えるようになり、この地区集会の資料でも勉強になったと感じている。自分事になり、これからどうなるのだろうかと考えた時に、夕張市のよい例はあるが、私はその程度しか知らず、今までのように「人が少なくなったのだから統合も当然だ」と言えるのか、自問自答しているところである。今の子どもたちを見ていると、もちろん私も今でも大事な友達がたくさんいるが、我々の時に比べもっと強い友達関係をもっており、そのことは大変うれしいことである。しかし、孫が小学校低学年の時に、クラブ活動の中で負けてもまったく悔しがらない姿を見て、子どもたちが井の中の蛙になっていないかということをつくづく思っていた。孫は高学年になってクラブ活動を変えたら悔しがるようになり、ありがたいことだと思うとともに、人生には「負けて悔しい気持ち」と「友人を大事にする気持ち」の二つが必要だと考えているので、そういう意味では成長してくれているのだと感じた。また、私も含め、皆様の頭の中には5～10年先のことがあると思うが、これは教育の問題であり、50年以上先にも続く問題である。50年後を考えた時には、人口減少はさらに続くので、揖斐川町に学校がない可能性もある。そういうことを考えると、これまでの統合の流れを継続することもやむを得ないのではないかと感じている。今の教育者が考えてい

ることは間違っていないと思っているので、ぜひ1～5年後ではなく、10～20年先を見据えて検討を進めてほしい。

住 民：資料の図表3をみると、大和小学校、北方小学校の学級数は7となっているが、これは特別支援学級（知的）が1クラスあるということだと考える。私は支援が必要な児童生徒に関わっているが、その中には自閉スペクトラム症の子どもやADHDの子どももあり、その子たちは元の学校へ帰りたいという願いをもっている。しかし、その学校には特別支援学級（知的）はあっても特別支援学級（自閉・情緒）がなく、資料に書かれている児童生徒数や先生の数から考えると、そうした学級はすぐにはできないだろうと思われる。だが、学校が統合し規模が大きくなれば、そうした教室も設置される可能性がある。今は多いところでクラスの2～3割は支援が必要な児童生徒ではないかと言われており、そうした子どもたちのことを考えると、一概に統合を否定できないと感じている。大きい規模の学校ができて、そこに通う子どもたちが全員満足して学校に通えて、しっかりと教育を受けられて社会生活を営める、そのような揖斐川町になっていくとよい。

住 民：保護者の立場から今のご意見に関連して話をすると、私の子どもはADHDで、今通っている小学校の先生方にすごく支えられている。夜に子どもが暴れてしまった時などにも相談に乗ったり、家に来て落ち着かせるのを手伝ってくれたりするなど、本当に親身になって親も支えてもらえるので、子どもも毎日楽しんで学校に行っており、とてもよい環境だと思っている。上の子は自閉スペクトラム症だが、小学校でも中学校でもとてもお世話になり、安心して子育てができたので、今の時点でも安心して通える環境だと感じている。

次に、大和公民館の立場で話をさせていただく。今年度から幼稚園や小学校、中学校と連携して、家庭教育に力を入れている。今は保護者の方も忙しいのでその負担を減らしつつ、学校や地域の方とつながって、将来大和地区のリーダーとして地域の方や公民館を支えてくれるような子どもたちが増えるとよいと思い活動している。今後もそういった活動を増やしていきたいと考えているので、協力をお願いしたい。

住 民：北方町に北方学園構想というものがあると思うが、それは小学校から中学校まで一貫校で、中学生を7～9年生と呼んでいるということをお聞きし、そのメリットにすごく魅力を感じている。低学年の子も高学年の子を見て魅力的に思えたり目標を持てたりするし、逆に高学年の子も低学年の子を見て心がほぐれて、いじめなどの様々な問題が起きにくいということもあるのではないかな。広い視野で見た時にはそういう工夫もよいと思うので、今の小学校や幼稚園の先生方、保護者の皆様も寄り添ってくださってとても満足しているが、そうした様々な工夫を皆様で考えることでより住みやすい揖斐川町になっていくと感じている。

教育長：大和公民館の家庭教育の充実に関する話をさせていただいたが、先日は木育の教室をしていただいたと聞いている。先ほどコミュニティ・スクールの紹介をしたが、地域の皆様が学校に関わってくださるのと同じように、地域の皆様のお力をお借りして地域の子どもたちと一緒に育てていくという取組みはとても素敵だと思っており、感謝を申し上げるとともに、ぜひ続けていただきたいと感じている。また、北方学園構想の話があったが、これは義務教育学校という形態の学校である。これは新しい学校の仕組みで、小学校1年生から中学校3年生まで同じ学校の中で生活するというものであり、もちろん勉強はそれぞれの学年で行うが、異年齢や異学年での教育活動がしやす

く、大人数の中で学ぶことによって互いの人間関係を広げ、さらに深めていくことが期待できると言われている。12月13日のシンポジウムでは、同じく義務教育学校の設置に力を入れている岐阜市の教育長からそのメリットやデメリットについて話を聞かせていただく予定である。

（４）閉会挨拶

- ・ 安藤委員より、閉会の挨拶を行う。

以上、閉会